

令和 6 年 6 月 12 日現在

機関番号：32643

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2023

課題番号：18K02736

研究課題名(和文)「よき医師」を育成するための入学者選抜方法と卒前教育の効果の検証

研究課題名(英文) Analysis of efficacy of a newly developed examination method for entry to a medical school to bring up "a good doctor"

研究代表者

大久保 由美子 (Okubo, Yumiko)

帝京大学・医学部・教授

研究者番号：80287317

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、医学部入試における「よき医師」となる資質特性の測定法を開発し検証することを目的とした。

受験者の非認知領域能力の評価のためにMultiple Mini-Interview(MMI)面接法を試験導入(MMIトライアル)した。学力試験、従来型面接、MMIトライアルが受験者の非認知領域能力を捉えているか、適性検査による心理特性との関連から検討した。従来型面接とMMIトライアルは一部の心理特性と相関があったが、学力試験はいずれの心理特性とも相関がなく、従来型面接、MMIトライアルに影響している心理特性にも違いがあった。以上より、複数の課題を組み合わせる重要性が示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

「よき医師」となるには、専門的な知識・技能だけでなく、コミュニケーション能力や他者を尊重する姿勢を身に付ける必要がある。入試では学力のような認知領域能力は筆記試験、コミュニケーション能力のような非認知領域能力は面接によって評価されることが多いが、従来型面接は実際に非認知領域能力を測ることができるかわからない。医師に求められる資質、適性を明確にし、それを測ることができる多様な課題を用意し、どの受験者にも同様に審査を行う、いわゆる面接の構造化が必要とされている。本研究の成果は社会の求める医師を養成するための第一歩である医学部入試の再考に資するものであり、社会にとって大きな意義のあるものである。

研究成果の概要(英文)：In this study, a newly developed examination method for entry to a medical school was inspected how it evaluates the nature characteristic to become "the good doctor".

We performed examination introduction of Multiple Mini-Interviews (MMI trial) for an evaluation of the non-recognition domain ability of the examinee. In order to analyze the properties, we considered whether achievement test, conventional interview, MMI trial captured the non-recognition domain ability of the examinee from the connection with the psychology properties by the aptitude test. The conventional interview and MMI trial were associated with some psychology properties, but there was no correlation in the achievement test, and the achievement test was different from both psychology characteristics in the psychology characteristic that influenced conventional interview, MMI trial. The importance that evaluated in combination problems more plural than the above was suggested.

研究分野：医学教育、医療者教育、内分泌学

キーワード：医学教育 医療者教育 入学者選抜 MMI OSCE 心理特性

1. 研究開始当初の背景

「よき医師」になるためには、専門的な知識・技能だけではなく、コミュニケーション能力や他者を尊重する姿勢を身につける必要がある。医学部入試では、そのような資質、適性を持つ者を見極めなければならない。入試時の評価は、学力のような認知領域能力は筆記試験、コミュニケーション能力のような非認知領域能力は面接によって評価されることが多い。だが、面接者が受験者に志望動機等を尋ね、印象をもとに評価するような一般的な面接は、評価基準が曖昧な上、実際に非認知領域能力を測ることができるかわからない。そのため、医師になるために欠くことができない資質、適性を明確にし、それを測ることができる多様な課題を用意し、どの受験者にも同様に審査を行う、いわゆる面接の構造化が必要とされている。

非認知領域能力の評価に関する問題を解決する面接法として、医学部入試では Multiple Mini-Interview (MMI) が知られている。MMI は、カナダの McMaster University で開発された。複数の課題を行うことによって、受験者自身が気づいていないような能力、資質を第三者が多く側の側面から評価できるという利点がある。入試時の MMI の評価が高いほど、入学後の臨床実習の評価や、臨床技能および態度を構造化された条件下で実施する客観的臨床能力試験 (OSCE) における非認知領域能力の評価が高いという報告があり、MMI によって、受験者が将来よき医師になりうるか予測できると期待されている。

2. 研究の目的

受験者の非認知領域能力の評価を目的として、2018 年度一般入試から MMI を試験的に導入した。本来の複数の課題を課す MMI ではなく、PF スタディ と呼ばれる心理検査を独自に応用した課題を実施した。新たな心理評価法によって本当に非認知領域能力を評価できたのか、また、すでに実施されている学力試験、従来型面接と非認知領域能力の間にどのような関連があるのか明らかになっていない。

本研究では、学力試験の成績、従来型面接ならびに MMI トライアルの評価と、適性検査によって測定した受験者の心理特性の関連を探索的に検討した。

3. 研究の方法

2018 年度の一般入試で第 2 次試験を受験した 287 名を対象とした。入試募集要項および学内イントラにて受験者および学生の個人情報の取り扱いについて明示しているが、本研究では個人が特定されることはない。一般入試では第 1 次試験に学力試験、適性検査、小論文を課している。第 1 次試験の学力試験成績により選別された第 2 次試験受験者に対して面接を行い、面接時間中に MMI トライアルを実施する。最終的には、出願時提出書類、第 1 次試験の学力試験と小論文の成績、第 2 次試験の面接の結果を総合して合格者を決定する。適性検査と MMI トライアルの評価は合否判定に反映されていない。

(1) 従来型面接と MMI トライアル

2018 年度一般入試の面接は、受験者 1 人に対し 3 名の面接官が面接をし、実施時間は 10 分だった。最初の 8 分は従来の一般的な面接を行い、残りの 2 分で MMI トライアルの応用版 PF スタディを実施した。PF スタディは日常で経験するような欲求不満 (フラストレーション) 状況を書いたイラストを用いて、一方の登場人物の既に明示されている発話内容に対して、もう一方の登場人物に成り切って回答するよう求めるテストである。この心理検査法によって、受験者がフラストレーション場面でどのように対処するか探り、入学後、問題なく学生生活を送ることができるか判断するために役立てることができると考えられる。MMI トライアルでは限られた時間で出題できるように、受験者 1 人当たり 1 枚のイラストを提示した。面接官は、受験生にイラストの登場人物が何と発言するか、イラストの人物に成り切って回答するよう求め、受験生の回答に対してどのような印象を持ったか、入学させるべきか評価をした。

(2) 適性検査

適性検査は 6 つの設問で構成され、問 が「社会性」、問 が「援助の受容」と「援助の供給」、問 が「抑うつ」、問 が「孤独感」、問 が「心身ストレス」、問 が「見通し問題」だった。回答方法はマークシートだった。本研究では、適性検査のうち、受験者の他者に対する態度を知るための「社会性」、「援助の受容」、「援助の供給」、「孤独感」、精神面の安定性を測るための「抑うつ」、「心身ストレス」の 6 つの心理特性について報告する。社会性、援助の受容、援助の供給、孤独感、抑うつは、既報の方法 で使用されたものと同じ尺度を利用した。いずれの心理特性も受験者の回答の合計を指標とした。

社会性

社会的スキル尺度 の 18 項目について、自分にどれだけ当てはまるか 5 段階で評定させた。90 点満点で得点が高いほど社会性が高い。

援助の受容・援助の供給

「買い物へ出かけるとき」など、日常で受験者やその友人が経験する場面において、「友達が一緒に行ってくれる」など援助を受ける傾向を測る「援助の受容」項目と、

「友達と一緒に行く」など援助をする傾向を測る「援助の供給」項目があり、それぞれのくらい当てはまるか、4段階で評定させた。援助の受容も援助の供給も15項目ずつあり、それぞれ60点満点だった。援助の受容得点が高いほど友人から援助を受ける傾向が強く、援助の供給得点が高いほど友人を援助する傾向が強い。

孤独感

「私は自分の周囲の人たちとうまくいっている」などの20項目について、日頃どのくらい感じるか4段階で評定させた。80点満点だった。得点が高いほど孤独感が強い。

抑うつ

「気が沈んでゆううつだ(落ち込んでいる)」などの23項目について、最近一週間で自分にどれだけ当てはまるか4段階で評定させた。92点満点だった。得点が高いほど抑うつ傾向が高い。

心身ストレス

「食欲がない」などの60項目について、最近一年間で、時々感じたり経験したことがある項目にはa、ほとんど感じたり経験したことがない項目にはbを選択させた。aを2、bを1とし、120点満点だった。得点が高いほど心身ストレスが高い。

(3) 認知領域能力と非認知領域能力の分析

認知領域能力の指標として第1次試験の学力試験成績、非認知領域能力の指標として従来型面接の評価ならびにMMI トライアルの評価を用いた。学力試験は400点満点、従来型面接ならびにMMI トライアルは「1. 入学させたくない、2. 入学は躊躇する、3. 入学させても良い、4. 入学させたい、5. 是非入学させたい」の5段階評価だった。

4. 研究成果

適性検査の心理特性の得点は、それぞれ満点が異なるため偏差値に変換した。

(1) 適性検査の心理特性間の相関

心理特性間の相関を表1に示す。精神面の安定性を知るための「抑うつ」と「心身ストレス」に0.6以上の相関があったため($r=0.61$, $p<.01$), 2つの変数を平均して「抑うつ・ストレス傾向」の変数を合成した。援助の供給と援助の受容に強い相関($r=0.90$, $p<.01$)があったが、2つの特性は異なる概念を測っていると捉え、区別して扱った。

表1 各特性間の相関

	社会性	援助の受容	援助の供給	抑うつ	孤独感	心身ストレス
社会性	1					
援助の受容	.38**	1				
援助の供給	.44**	.90**	1			
抑うつ	-.57**	-.24**	-.27**	1		
孤独感	-.47**	-.41**	-.43**	.65**	1	
心身ストレス	-.36**	-.10†	-.10	.61**	.57**	1

** $p<.01$, * $p<.05$, † $p<.10$

(2) 学力試験、従来型面接、MMI トライアルと心理特性の相関

学力試験、従来型面接、MMI トライアルと各心理特性の相関を表2に示す。従来型面接と孤独感($r=-0.25$, $p<.01$), MMI トライアルと孤独感($r=-0.21$, $p<.01$)に弱い負の相関があり、受験者の孤独感が弱いほど、面接官から高い評価を受けていた。学力試験と各心理特性に相関は認められなかった。

表2 成績と各特性の相関

	社会性	援助の受容	援助の供給	孤独感	抑うつ・ ストレス傾向	学力試験	従来型面接	MMI トライアル
社会性	1							
援助の受容	.38**	1						
援助の供給	.44**	.90**	1					
孤独感	-.47**	-.41**	-.43**	1				
抑うつ・ ストレス傾向	-.52**	-.19**	-.21**	.68**	1			
学力試験	.00	-.04	-.09	-.10†	-.12*	1		
従来型面接	.18**	.10†	.09	-.25**	-.14*	.11†	1	
MMI トライアル	.15**	.05	.04	-.21**	-.15**	.13*	.75**	1

** $p<.01$, * $p<.05$, † $p<.10$

(3) 学力試験、従来型面接ならびにMMI トライアルの評価に対して心理特性が及ぼす影響の検討

学力試験、従来型面接、MMI トライアルそれぞれについて、適性検査で測定した心理特性のうち、どの特性が最も強く影響しているのか、重回帰分析によって検討した。分析にはHADを使用した。説明変数のうち、援助の受容と援助の供給の相関が強いいため、それぞれ別に分析した。

「援助の受容」を含む重回帰分析

学力試験、従来型面接、MMI トライアルそれぞれに対し、社会性、援助の受容、孤独感、

抑うつ・ストレス傾向を説明変数とする重回帰分析を行った。結果を表3に示す。

表3 各試験課題成績に対する社会性、援助の受容、孤独感、抑うつ・ストレス傾向の標準偏回帰係数()と決定係数(R²)

変数名	学力試験	従来型面接	MMI トライアル
社会性	-0.08	0.12 [†]	0.09
援助の受容	-0.07	-0.04	-0.06
孤独感	-0.08	-0.27**	-0.20*
抑うつ・ストレス傾向	-0.12	0.10	0.02
R ²	0.03	0.07**	0.05**

** p<.01, * p<.05, † p<.10

●学力試験に対する分析結果

学力試験に対して、社会性、援助の受容、孤独感、抑うつ・ストレス傾向のいずれも影響していなかった。

●従来型面接ならびに MMI トライアルに対する分析結果

従来型面接に対する孤独感の負の効果があり(=-0.27, p<.01), 受験者の孤独感得点が低いほど、高い評価を受けていた。また、有意傾向ではあるが、従来型面接に対する社会性の効果があり(=0.12, p=.09), 社会性得点が高いほど、評価が高い傾向があった。

MMI トライアルに対し、従来型面接と同じく孤独感の負の効果があり(=-0.20, p<.05), 受験者の孤独感得点が低いほど、高い評価を受けていた。援助の受容、抑うつ・ストレス傾向は従来型面接にも、MMI トライアルにも影響していなかった。

「援助の供給」を含む重回帰分析

学力試験、従来型面接、MMI トライアルそれぞれに対して、社会性、援助の供給、孤独感、抑うつ・ストレス傾向を説明変数とする重回帰分析を行った。結果を表4に示す。

表4 各試験課題成績に対する社会性、援助の供給、孤独感、抑うつ・ストレス傾向の標準偏回帰係数()と決定係数(R²)

変数名	学力試験	従来型面接	MMI トライアル
社会性	-0.04	0.13 [†]	0.11
援助の供給	-0.14*	-0.07	-0.10
孤独感	-0.12	-0.29**	-0.22*
抑うつ・ストレス傾向	-0.09	0.11	0.03
R ²	0.04*	0.07**	0.05**

** p<.01, * p<.05, † p<.10

●学力試験に対する分析結果

表4より、学力試験に対する援助の供給の負の効果が有意で(=-0.14, p<.05), 援助の供給得点が低いほど、学力試験の成績が良い傾向があった。社会性、孤独感、抑うつ・ストレス傾向の影響は認められなかった。

●従来型面接ならびに MMI トライアルに対する分析結果

従来型面接に対して孤独感の負の効果があり(=-0.29, p<.01), 孤独感得点が低いほど、高い評価を受けていた。また、有意傾向ではあるが、従来型面接に対する社会性の効果があり(=0.13, p=.07), 社会性得点が高いほど評価が高い傾向がみられた。

MMI トライアルに対しても、従来型面接と同じく孤独感の負の効果があつた(=-0.22, p<.01)。援助の供給と抑うつ・ストレス傾向は従来型面接にも、MMI トライアルの評価にも影響していなかった。

<考察>

MMI トライアルにより、受験者の非認知領域能力の評価ができるか、適性検査で測定した受験者の心理特性と、学力試験の成績、従来型面接ならびに MMI トライアルの評価との関連を検討した。

まず、学力試験成績、従来型面接、MMI トライアルと受験者の心理特性の相関から関連性を確認した。学力試験の成績は、いずれの心理特性とも相関がなく、心理特性のような非認知領域能力と学力試験の成績は結びつかないと考えられる。一方、従来型面接、MMI トライアルは、受験者の心理特性のうち孤独感との関連が認められ、測定できる側面が学力試験とは異なることが分かった。

続いて、学力試験の成績、従来型面接ならびに MMI トライアルそれぞれについて、受験者の心理特性がどのような影響を及ぼしているか、重回帰分析によって検討したところ、次のことが分かった。

学力試験の成績は、6つの心理特性の中でも援助の供給から最も影響を受けており、友人を援助する傾向が低い受験者ほど学力試験で良い成績を取っていた。この結果は、医学部入試の入口評価として学力試験成績を重視した場合、試験では優秀な成績を修めるが、他者を助けることに消極的な人物が入学しやすいと捉えることもでき、協調性のような非認知領域能力を評価でき

ない可能性がある。

従来型面接，MMI トライアルともに孤独感からの影響が認められ，孤独感が弱い受験者ほど，面接官からの評価が高かった。適性検査の孤独感尺度には，「私は，今，誰とも親しくしていない」という単純な孤独感だけではなく，「私をよく知っている人は誰もいない」，「私には知人はいるが，私と同じ考えの人はいない」など他者から理解されないという気持ちや，「私は，たいへん引っ込み思案なのでみじめである」といった自己表現に対する苦手意識に関連する項目があった。孤独感が弱い受験者ほど他者は自分の考えを理解してくれると感じ，面接での自己表現に抵抗がなく，高い評価を受けたと推察される。

学力試験と，従来型面接ならびに MMI トライアルでは関連する心理特性に違いがあることが示されたが，従来型面接と MMI トライアルの間でも違いが認められた。MMI トライアルは孤独感以外の特性から影響を受けていなかったが，従来型面接は孤独感に加え，社会性から影響を受けており，社会性が高い受験者ほど面接官からの評価が高かった。社会的スキル尺度には「他人と話していて，あまり会話が切れない」など他者との会話に関連する項目が含まれており，従来型面接は MMI トライアルよりも会話がより形式だったため，社会性の影響が表れやすかった可能性がある。この結果から，従来型面接や MMI トライアルのような面接法の間でも課題の性質によって関連する心理特性が異なり，評価できる非認知領域能力が異なると考えられる。

以上より，学力試験と従来型面接によって構成される一般的な医学部入試では，測定が難しい非認知領域能力の側面があることが示唆された。特に，学力試験の成績だけを重視して合否を判断した場合，協調性のような，よき医師に必要なと考えられる資質を持つ人物を選抜しにくい可能性がある。

また，従来型面接と MMI トライアルの間でも，評価と心理特性との関連に違いがあることから，課題の性質によって測定できない側面があると言え，測定できない部分を補うために複数の課題を組み合わせることで入口評価を行うことが効果的だと考えられる。本研究の結果は，医学部入試において複数の課題から評価を行う重要性と，本格的な MMI を導入する意義を示すものといえるだろう。

本研究の課題として，分析で扱った非認知領域能力の指標の多くは総合的な評価であり，心理特性と評価の関連性を示すことはできなかったが，狙った側面を測ることができたか，さらなる検討の余地が残されている点が挙げられる。従来型面接ならびに MMI トライアルにおいては，面接官による受験者の印象評定，心理特性の指標においては，尺度の下位項目に焦点を当てることで，今回の分析から明らかになった非認知領域能力と心理特性の関連性をより具体的に示すことができるだろう。

今後の展望として，MMI の本格導入に向けて，どのような課題を用いれば限られた時間内でより妥当な評価ができるのか検討することが必要だ。まず，どのような課題を導入すべきか探るために，入試時と入学後の成績の関連性から非認知領域能力が優れた学生のコンピテンシーを明らかにする。そして，そのコンピテンシーを測ることができるような課題を設定し，入学生を対象にプレテストの実施，あるいは既存のデータとの関連を分析することにより，妥当性を検証する。このような縦断的な調査研究を継続し，よき医師を育成するために必要な入試の評価法を引き続き検討していく。

< 引用文献 >

- 吉村博．卒前・卒後医学教育への選抜法 Professionalism を学べる潜在能力を教育カリキュラムの入り口で評価する：ジェネラリスト教育コンソーシアム．12 2019 132-136
- Eva K.V, Rosenfeld J, Reiter H.I, Norman G.R. An admissions OSCE: the multiple mini-interview. Medical Education 38(3) 2004 314-326
- Knorr M, Schwibbe A, Ehrhardt M, Lackamp J, Zimmermann S, Hampe W. Validity evidence for the Hamburg multiple mini-interview. BMC Medical Education 18 2018 106
- Kumar N, Bhardwaj S, Rahman E. Multiple mini-interview as a predictor of performance in the objective structured clinical examination among Physician Associates in the United Kingdom: a cohort study. Advances in Medical Education and Practice 9 2018 239-245
- Reiter H.I, Eva K.W, Rosenfeld J, Norman G.R. Multiple mini-interviews predict clerkship and licensing examination performance. Medical Education 41 2007 378-384
- 林 勝造．P-F スタディ解説．2007 三京房
- 吉澤 しのぶ．女子中学 1 年生を対象とした学年単位の集団社会的スキル訓練の効果．東京女子医科大学雑誌 83 (4) 2013 305 - 306.
- 菊池 章夫．Social Skill 尺度の作成．東北心理学研究 38 1988 67 - 68
- 菊池 章夫．思いやりを科学する 1988 川島書店
- 清水裕士．フリーの統計分析ソフト HAD：機能の紹介と統計学習・教育，研究実践における利用方法の提案．メディア・情報・コミュニケーション研究 1 2016 59 - 73

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 冲永寛子、大久保由美子、田中篤、金子一郎、渡邊清高	4. 巻 91
2. 論文標題 帝京大学医学部における新型コロナウイルス感染症の影響下での医学教育・臨床実習 ~ コロナ禍での教育の現状とさらなる教育改良に向けた取り組み ~	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 医学振興	6. 最初と最後の頁 21-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Kazuyo Yamauchi; Yoko Hagiwara; Nahoko Iwakura; Saori Kubo; Azusa Sato; Tadahiko Ohtsuru; Ken Okazaki; Yumiko Okubo	4. 巻 21
2. 論文標題 Using peer role-playing to improve students' clinical skills for musculoskeletal physical examinations	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 BMC Med Educ	6. 最初と最後の頁 322
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s12909-021-02742-4	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 平野万由子、大久保由美子、山内かづ代	4. 巻 31
2. 論文標題 医学部入試における新たな心理的評価法導入の試み 非認知領域能力の評価と受験者の適性・心理特性との関係	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 大学入試研究ジャーナル	6. 最初と最後の頁 183, 188
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.57513/dncjournal.31.0_183	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Onoshima Takahiro, Shiina Kenpei, Ueda Takashi, Kubo Saori	4. 巻 46
2. 論文標題 Decline of Pearson's r with categorization of variables: a large-scale simulation	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Behaviormetrika	6. 最初と最後の頁 389-399
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s41237-019-00089-1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山内かづ代	4. 巻 54
2. 論文標題 整形外科を牽引する女性医師たち 男女共同参画	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 臨床整形外科	6. 最初と最後の頁 477-480
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11477/mf.1408201361	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大久保由美子	4. 巻 265
2. 論文標題 国際基準に基づく医学教育の質保証	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 医学のあゆみ	6. 最初と最後の頁 964-965
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

[学会発表] 計39件(うち招待講演 4件/うち国際学会 2件)

1. 発表者名 大久保由美子、堀田晶子、紺野久美子、村井田幸恵、村上ひとみ、多田弥生、堂後京子、宇野希世子、川岸由佳、関屋晴子、沖永寛子
2. 発表標題 学生と医療者の働き方および子育てに関する意識調査と調査結果に基づく子育て支援
3. 学会等名 第56回日本医学教育学会(招待講演)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 渡邊清高、紺野久美子、堀田晶子、石川ひろの、村上勲、古屋洋子、白井千恵、大久保由美子
2. 発表標題 医療系学部合同「医療コミュニケーション」演習におけるチーム医療・多職種連携の教育効果
3. 学会等名 第56回日本医学教育学会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 菅宮友莉奈、大谷拓也、山内かづ代、大久保由美子、高西淳夫
2. 発表標題 臨床実習参加前の学生向け身体診察トレーニングの自己学修用シミュレータの開発と評価
3. 学会等名 第56回日本医学教育学会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 中村英里、藤原優子、丸山桂司、鈴木俊英、紺野久美子、堀田晶子、大久保由美子
2. 発表標題 医学生と薬学生を対象とした社会人基礎力と将来像に関する調査
3. 学会等名 第56回日本医学教育学会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 森裕香、川上真紀子、小田愛実、紺野久美子、石川ひろの、渡邊清高、堀田晶子、大久保由美子
2. 発表標題 本学における専門職連携教育を目的とした多学部合同演習に対する医学部生と研修医へのアンケート
3. 学会等名 第56回日本医学教育学会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 賀来明日美、金子日向子、梅本佳穂、岡田朋子、金田彩子、田村直輝、肥田真衣、溝上春菜、安達三美、堀田晶子、渡邊清高、紺野久美子、大久保由美子
2. 発表標題 早期臨床体験実習としてのエスコート実習の意義と学修効果について
3. 学会等名 第56回日本医学教育学会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 大久保由美子
2. 発表標題 医学生にとって魅力的な内分泌学・代謝学教育を考える
3. 学会等名 第97回日本内分泌学会学術総会（招待講演）
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 大久保由美子
2. 発表標題 すべての人が輝ける医療者教育
3. 学会等名 第9回日本がんサポーターブケア学会学術集会（招待講演）
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 大久保 由美子， 大滝 恭弘， 安達 三美， 酒本 瑞姫， 藤原 優子， 中村 英里， 大谷 浩樹， 増山 里枝子， 白井 千恵， 帝京大学男女共同参画推進委員会
2. 発表標題 多職種連携で考えるワーク・ライフバランスと1年生が求める相談相手
3. 学会等名 第55回日本医学教育学会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 菊地 弘敏， 山村 朋子， 阿部 浩一郎， 大久保 由美子， 塚本 和久， 大胡 恵樹
2. 発表標題 コロナ禍の臨床実習においてICTを活用した実習日誌のファイル共有による振り返りとフィードバックの効果
3. 学会等名 第55回日本医学教育学会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 大久保 由美子, 大滝 恭弘, 安達 三美, 酒本 瑞姫, 藤原 優子, 中村 英里, 大谷 浩樹, 関 玲子
2. 発表標題 1年次に多職種連携で学ぶワーク・ライフバランスによるキャリアプランの変化
3. 学会等名 第54回日本医学教育学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 大久保由美子, 高田真二, 中村英里, 藤原優子, 大滝恭弘, 酒本瑞姫, 大谷浩樹, 増山里枝子, 臼井千恵, 鈴木俊英, 丸山桂司
2. 発表標題 医療人としての基礎力とキャリアプランニングを向上させる教育の開発とその検証
3. 学会等名 第5回帝京大学研究交流シンポジウム
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 井上まり子, 大久保由美子, 大谷浩樹, 齋藤智恵, 堂後京子, 平澤孝枝, 山本秀樹, 飯山由起子, 関屋晴子, 松岡みどり
2. 発表標題 メノポーズ研究プロジェクト メノポーズを科学し、生涯働きやすい社会をつくるために
3. 学会等名 第5回帝京大学研究交流シンポジウム
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Ichiro Kaneko, Yumiko Okubo, Yasuo Takeuchi, Keiji Maruyama, Koichiro Abe, Kumiko Konno
2. 発表標題 Final Outcomes of the Successful Cooperation on the Development of the University-Standardized Basic Life Support (BLS) Skill Test
3. 学会等名 AMEE2022 (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 渡邊 清高, 高田真二, 山田昌興, 小尾俊太郎, 河野肇, 時崎暢, 三澤健之, 田中篤, 大久保由美子
2. 発表標題 CC-EPOC (卒前学生医用臨床教育評価システム) 導入期における課題抽出とマニュアル策定による臨床実習の活性化
3. 学会等名 第54回日本医学教育学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 菊地 弘敏, 阿部 浩一郎, 大久保 由美子, 塚本 和久
2. 発表標題 コロナ禍の臨床実習におけるファイル共有による実習日誌の効果
3. 学会等名 第54回日本医学教育学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 金子一郎, 高田真二, 菊地 弘敏, 田中篤, 渡邊清高, 竹内保男, 大久保由美子
2. 発表標題 オンライン形式で開催された医学部Faculty development (FD)における医師のプロフェッショナリズムに関する教育成果
3. 学会等名 第54回日本医学教育学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 竹内保男, 丸山桂司, 大久保由美子, 金子一郎, 坂本哲也, 森村尚登
2. 発表標題 時間経過による医学部学生の胸骨圧迫能力保持の検証
3. 学会等名 第54回日本医学教育学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 松田貴美子, 中村英里, 竹内保男, 中村康宏, 村上勲, 大久保由美子, 金子一郎, 丸山桂司
2. 発表標題 帝京大学4学科における胸骨圧迫スキルの修得度比較
3. 学会等名 第54回日本医学教育学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 大久保由美子, 井上まり子, 大谷浩樹, 齋藤智恵, 堂後京子, 平澤孝枝, 山本秀樹, 飯山由起子, 関屋晴子
2. 発表標題 メノポーズ研究プロジェクト メノポーズを科学し、生涯働きやすい社会をつくるために
3. 学会等名 第4回帝京大学研究交流シンポジウム
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大久保由美子, 田中篤
2. 発表標題 医学教育専門部局への配属と教員の変化
3. 学会等名 第53回日本医学教育学会大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山内かづ代
2. 発表標題 外科系医学教育者としての整形外科医のキャリア形成
3. 学会等名 第53回日本医学教育学会大会(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山内かづ代, 岩倉菜穂子, 佐藤梓, 大久保由美子, 岡崎賢
2. 発表標題 臨床技能向上のための診療参加型臨床実習における自己フィードバックの分析
3. 学会等名 第53回日本医学教育学会大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 神保彰寛、神保佳穂、柴山瑠里子、関口徹、伴光帆奈美、鈴木崇史、西村有里、岡本かおり、内野卓也、宇野健司、盛田幸司、大久保由美子、石川敏夫、塚本和久
2. 発表標題 1 point GDM 指摘5年後に顕性化したクッシング症候群の1例
3. 学会等名 第31回臨床内分泌代謝Update
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 加藤多津子、中島範宏、山内かづ代、大久保由美子、西村勝治、吉田千鶴、吉武久美子
2. 発表標題 医学部・看護学部における患者安全・多職種協働教育の学修効果
3. 学会等名 第53回日本医学教育学会大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山内 かづ代, 佐藤 梓, 久保 沙織, 渡邊 祐介, Navedo Deborah, 大久保 由美子
2. 発表標題 医学部生に対する縫合シミュレーション教育プログラムの開発と評価
3. 学会等名 日本シミュレーション医療教育学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 岡田みどり、大久保由美子、木村利美、木下順二、久保沙織、佐藤梓
2. 発表標題 医学部と薬学部が共に学ぶ協働教育「薬害について学ぶワークショップ」
3. 学会等名 日本薬学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 YAMAUCHI Kazuyo, HAGIWARA Yoko, NAGATO Yoshinori, KUBO Saori, OKAZAKI Ken, OKUBO Yumiko
2. 発表標題 Effect of a peer role playing simulation on the competency of medical students in performing musculoskeletal physical examination and clinical reasoning
3. 学会等名 An International Association for Medical Educaiton (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 加藤多津子、大久保由美子、岡田みどり、西村勝治、清水洋子、小川久貴子
2. 発表標題 東京女子医科大学における患者安全・多職種協働教育の試みについて
3. 学会等名 日本医療・病院管理学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山内かづ代、佐藤梓、久保沙織、渡邊祐介、NAVEDO Deborah、大久保由美子
2. 発表標題 医学部生に対する縫合シミュレーション教育プログラムの開発と評価
3. 学会等名 日本シミュレーション医療教育学会学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山内かづ代
2. 発表標題 医師のライフワークバランスの現状とその評価 - 整形外科医の働き方改革に向けて
3. 学会等名 東日本整形災害学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 菅宮友莉奈、大谷拓也、中楯龍、大久保由美子、山内かづ代、高西淳夫
2. 発表標題 状態遷移モデルと患者OGを用いた臨床技能訓練システム
3. 学会等名 日本ロボット学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大久保由美子
2. 発表標題 高等学校理科履修科目と基礎医学科目の理解度の認識および試験成績の関係
3. 学会等名 第50回日本医学教育学会大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 久保沙織
2. 発表標題 能動的進路選択が医学部入学後の満足度およびモチベーション増進に与える影響
3. 学会等名 第50回日本医学教育学会大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山内かづ代
2. 発表標題 整形外科臨床実習における実践的診察シミュレーションは四肢脊柱身体診察および臨床推論能力を向上させた
3. 学会等名 第50回日本医学教育学会大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 野村馨
2. 発表標題 初期研修医の地域医療研修におけるプロフェッショナリズムの評価
3. 学会等名 第50回日本医学教育学会大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 篠崎和美
2. 発表標題 指導医講習会のアンケートからの臨床医への医学教育学の必要性の検討
3. 学会等名 第50回日本医学教育学会大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 岡田みどり
2. 発表標題 薬害について共に学ぶ他職種連携教育
3. 学会等名 日本薬学会第139年会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 峯川美弥子
2. 発表標題 看護基盤教育におけるTBLを用いた主体性育成教育プログラム導入2年目の実践報告
3. 学会等名 第38回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 東京女子医科大学人間関係教育委員会編	4. 発行年 2018年
2. 出版社 三恵社	5. 総ページ数 358
3. 書名 人間関係教育と行動科学テキストブック 第3版	

〔産業財産権〕

〔その他〕

第56回日本医学教育学会大会を主催予定（2024年7月）

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	山内 かづ代 (Yamauchi Kazuyo) (30648069)	千葉大学・医学部・教授 (12501)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	久保 沙織 (Kubo Saori) (70631943)	東北大学・大学院教育学研究科・准教授 (11301)	期間途中で分担から外れる

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 協力者	平野 万由子 (Hirano Mayuko)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関